改訂

火災から命を守る

住宅防火読本

はじめに

「火災から命を守る　住宅防火読本」は、住宅における総合的な火災安全対策を分かりやすく編集したもので、平成 28 年に作成し、おかげさまで多くの皆さまの手にとっていただき、ご好評をいただいております。特に、住宅の防火対策に関し、当冊子では住宅用火災警報器や住宅用消火器の使用方法等について、専門家の知見を交えて分かりやすく説明しています。

また、具体的な火災事例や奏功事例なども織り込んだコラムを充実させ読みやすく編集しています。さらに、万が一火災が発生した場合の対応や、火災が起きてしまったあとの対応についてもご紹介しています。

今回の改訂は、火災の数値の更新や新たな事例の掲載、コラム欄の見直しを中心に行っています。そのため、当冊子を初めてお手にとられる皆さまはもとより、当冊子をすでにご覧になられている皆さまにも、より充実した内容としてお届けできるのではと思います。

住宅用火災警報器の全国の設置率は、平成 30 年 6 月 1 日現在で 81.6％となっていますが、設置後 10 年が経過し、電池切れや性能・機能の低下により更新の時期を迎えているものが見受けられるようになってきています。特に、住宅用火災警報器の更新の時期に留意していただくとともに、当冊子を活用していただき、住宅用火災警報器の機能を適正に維持するための点検とメンテナンスに、ご留意いただければと思います。

この住宅防火読本を日頃からご活用いただき、住宅防火対策のさらなる充実と、火災発生の防止や被害の軽減にお役立ていただければ幸いです。

平成 30 年 11 月

この冊子を活用しましょう！

住宅用火災警報器が鳴ったとき、皆さんはどのように行動しますか？
この冊子では、住宅に潜む火災の危険とその予防対策を、また、万が一火災が発生したときの行動について説明しています。
いざというときにそなえて、ぜひご活用ください。

目　次

第1章 火災の実態

住宅火災の実態を知ろう！・・・4
原因別にみる！火災の危険・・・6
こんろによる火災の対策・・・8
電気器具類による火災の対策・・・10
たばこによる火災の対策・・・12
ストーブによる火災の対策・・・14
放火の対策・・・16

第2章 火災を防ぐために

火災を防ぐためにはこんな防火・防災製品があります！・・・18
知らせる！住宅用火災警報器は命を守る・・・20・22
初期消火に有効！住宅用消火器具・・・24・26・28
その他の防火・防災製品・・・30・32

第3章 火災が起きたら

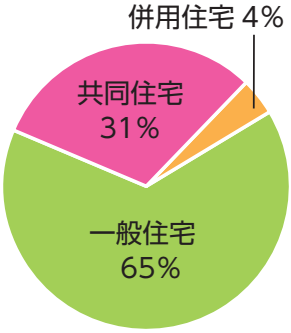
住宅用火災警報器が鳴ったら…・・・34
消火するか・・・36
火を消すことができたら・・・38
周りに知らせよう・・・40
避難しよう・・・41
消防に通報する・・・42

資料

日頃から家族で話し合っておきましょう・・・44
火災予防のチェックポイント・・・46

住宅火災の実態を知ろう！

１日約29件、約50分に１件
誰かの家で火の手が上がる！



出典：平成 29 年における火災の状況
消防庁

住宅火災は財産だけでなく、自分や家族の命、ご近所の方の安全をも危険にさらす恐ろしいものです。

住宅火災の件数（放火を除く）は、全国で年間 10,489 件。1 日に換算すると約 29 件、約 50 分に 1 件、火の手が上がっています。**火災の危険は想像以上に身近なところにある**のです。

1年間の住宅火災件数

（放火を除く）

早期発見を心がけて適切な行動を！

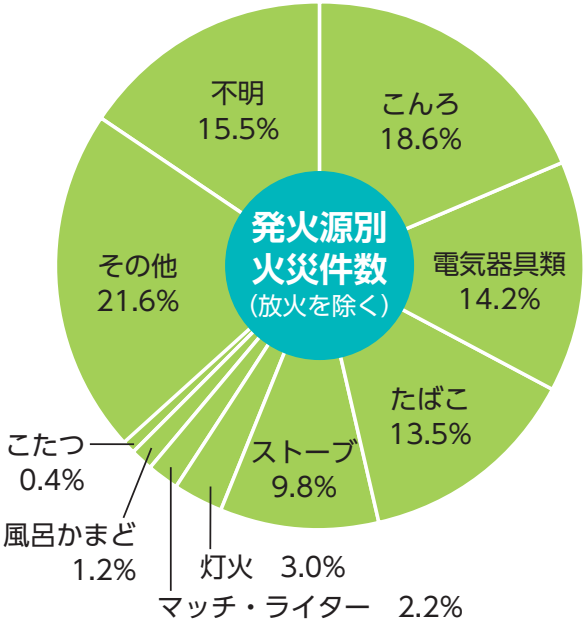
住宅火災から大切な家族を守るためには、いくつかの対策が考えられます。まず、いちばん大切なのは、火災を早く見つけること！　そして、初期の段階で適切な行動をとることです。そのために必要な知識と防火・防災機器について知っておきましょう。

原因別にみる！火災の危険

ここでは、住宅火災の原因と死者数について説明します。

住宅火災の“発火源”は？

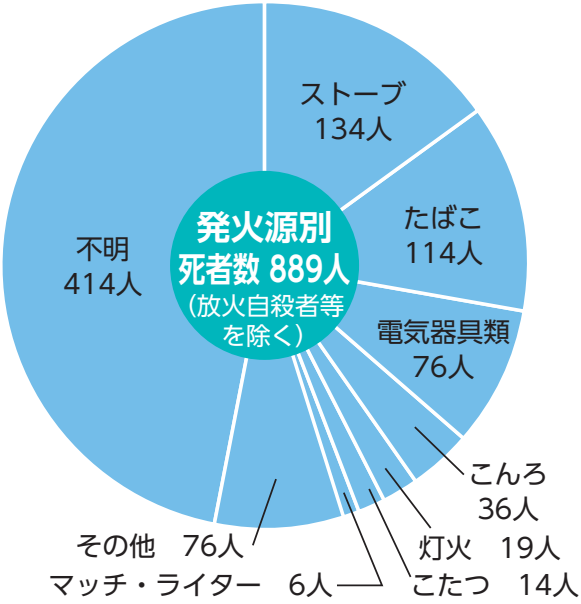
発火源別火災件数の第１位は「こんろ」、第２位は「電気器具類」、第３位は「たばこ」



出典：平成 29 年における火災の状況
消防庁

住宅火災の発火源別死者数は？

発火源別死者数の第１位は「ストーブ」、第２位は「たばこ」、第３位は「電気器具類」



出典：平成 29 年における火災の状況
消防庁

こんろによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「こんろによる火災」について説明します。

こんろによる火災を知ろう！

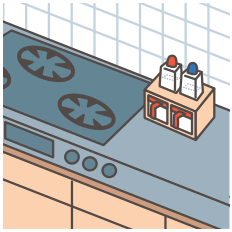
調理中は絶対にその場を離れない、
離れるときは必ず火を消すこと!!

注意点と予防方法

①着衣着火に注意！

　着衣着火とは、こんろの炎が衣服に燃え移ることです。袖口などは特に注意をはらいましょう。防炎品であるアームカバーなどを着用すると安心です。

②こんろの周りに物は置かない！



　こんろの近くに置いていたふきんに、火が燃え移ってしまうこともあります。こんろの周りには物を置かないようにしましょう。

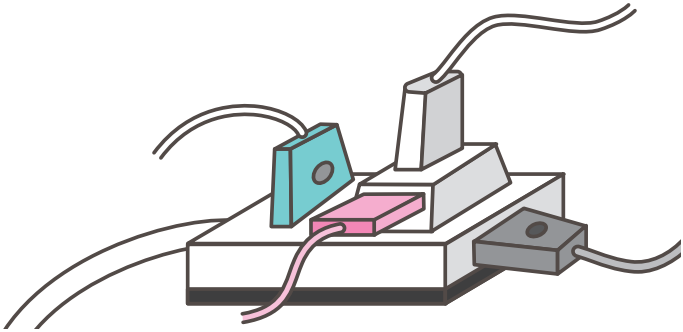
コラム　地震が起きたときは

　調理中に地震が発生したら、慌てずに火を消すなど、身の安全をはかりましょう。

電気器具類による火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「電気器具類による火災」について説明します。

電気器具類による火災を知ろう！

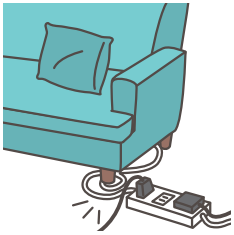


電気器具類の発熱注意

見えないところで発火することも

注意点と予防方法

①コード類の取扱いに注意！



許容電流を超えることで発熱・発火するタコ足配線は、火災原因の一つです。電気器具類等の同時使用に気をつけましょう。

また、コードの上に重いものを乗せると配線に負荷がかかってショートすることもあるので、気をつけましょう。

②トラッキング現象に注意！

コンセントと電気プラグの間にホコリ等が溜まり、湿気が加わるとそれが導線になり電気が流れます。やがてそこから発火するのが「トラッキング現象」です。

コンセントの周りはこまめに掃除をして、ホコリを溜めないようにしましょう。

コラム　テーブルタップからの火災事例

オーブントースターと電子レンジを同時使用したことで、テーブルタップの配線に過大な電流が流れ発熱。時間の経過に伴い配線に着火し出火した。

たばこによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「たばこによる火災」について説明します。

たばこによる火災を知ろう！

長い時間をかけて火災になる
たばこによる火災の怖さ

注意点と予防方法

①寝たばこは絶対にしない！

たばこの火がついた布団は、炎を上げないでゆっくりと燃焼を続け、空気の流入などの条件が揃うと、炎を上げて燃え始めます。布団などの近くでは、たばこを吸わないようにしましょう。

②たばこの火は必ず消すこと！

たばこの火は必ず消しましょう。吸殻は必ず灰皿に入れ、火が消えていることを確認しましょう。

また、家の中で喫煙場所を決めておくことも、たばこによる火災を未然に防ぐ基本的な方法です。

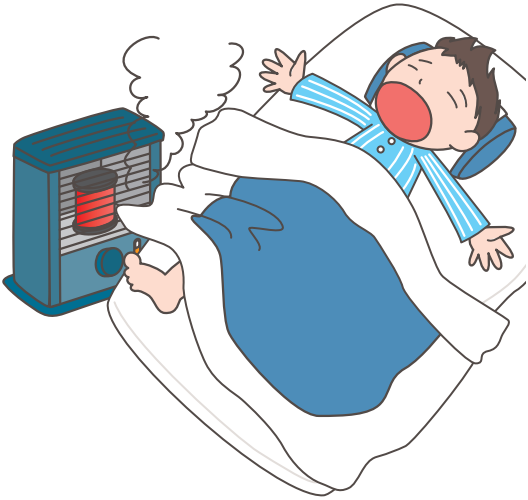
コラム　たばこによる火災事例

居住者が室内でたばこを吸った後、完全消火されていないたばこの吸殻をごみ袋に捨てたため、ごみ袋内のごみくず等に火がつき、無炎燃焼を継続した後に出火した。

ストーブによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「ストーブによる火災」について説明します。

ストーブによる火災を知ろう！

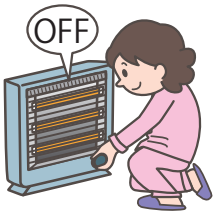


ストーブの周りは常に警戒、
離れるときは必ず火を消すこと!!

注意点と予防方法

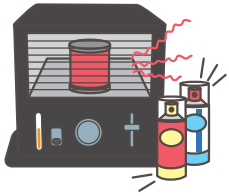
①就寝前は必ず電源をオフに！

石油ストーブより、電気ストーブが火災の原因として多いのが実情です。就寝前は油断せず、必ず電源をオフにする習慣をつけましょう。



②給油・移動は特に注意を！

石油ストーブの場合、火をつけたままの給油や、持ち運びは絶対にしてはいけません。



③ストーブの周りを警戒！

スプレー缶など破裂の可能性があるものや、洗濯物や布団などの燃えやすいものは近くに置かないようにしましょう。

コラム　ストーブの火災事例

部屋で使用していた電気ストーブに新聞紙等の紙類が接触したことから、火災となった。

放火の対策

「出火原因」第一位は、20 年連続で「放火」です。ここでは、「放火」について説明します。

平成 29 年版消防白書より

放火を知ろう！

『放火されない』、『放火させない』、『拡大させない』

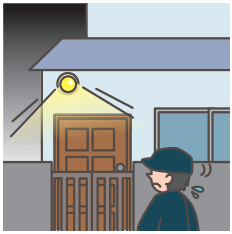
注意点と予防方法

①燃えやすいものは放置しない！

古紙や段ボールなどを屋外に出しておくと、放火されやすくなります。ごみ出しの日まで、室内で保管しましょう。

②暗がりを作らない！

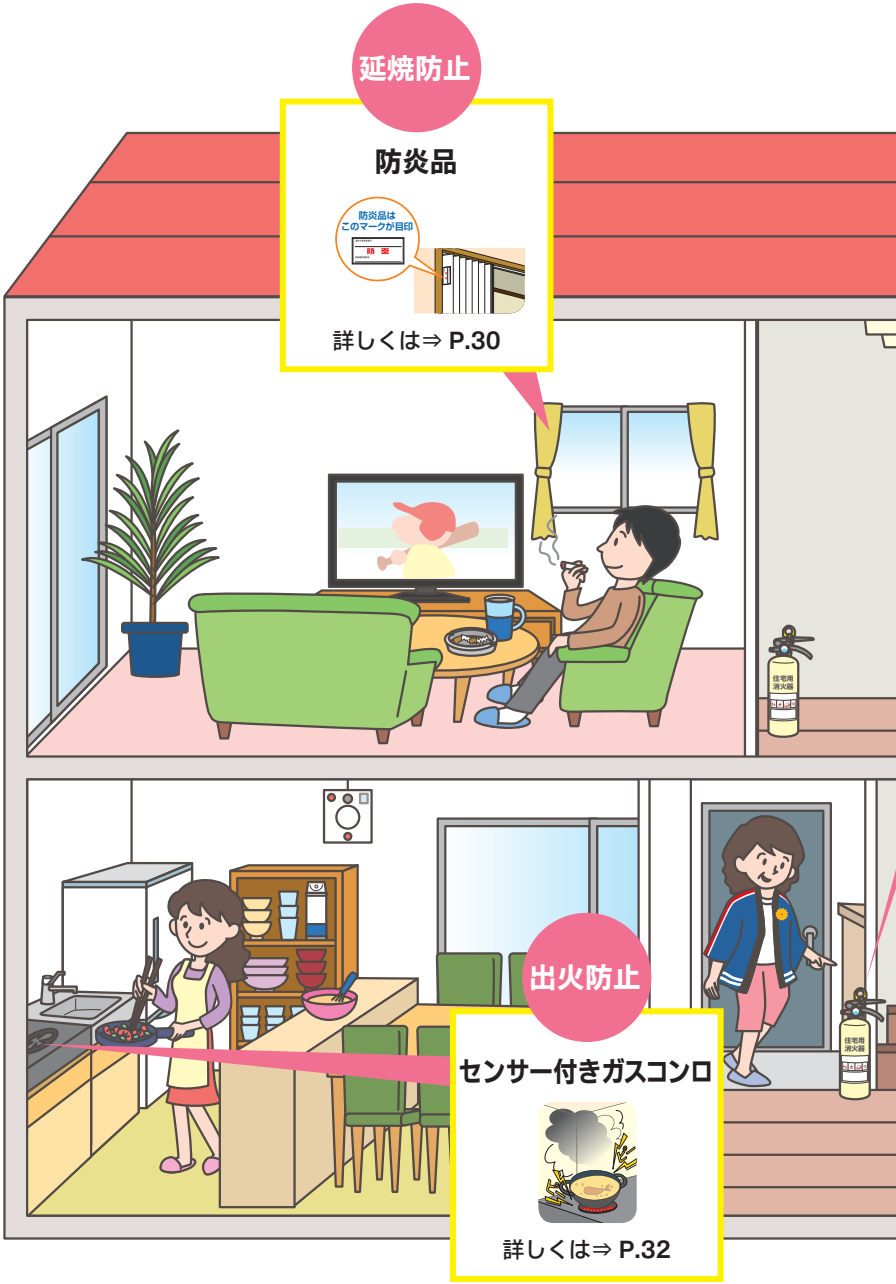
暗い場所は人目につかないため、格好の放火場所になってしまいます。照明などをつけ、明るくすることで放火されにくい環境をつくりましょう。



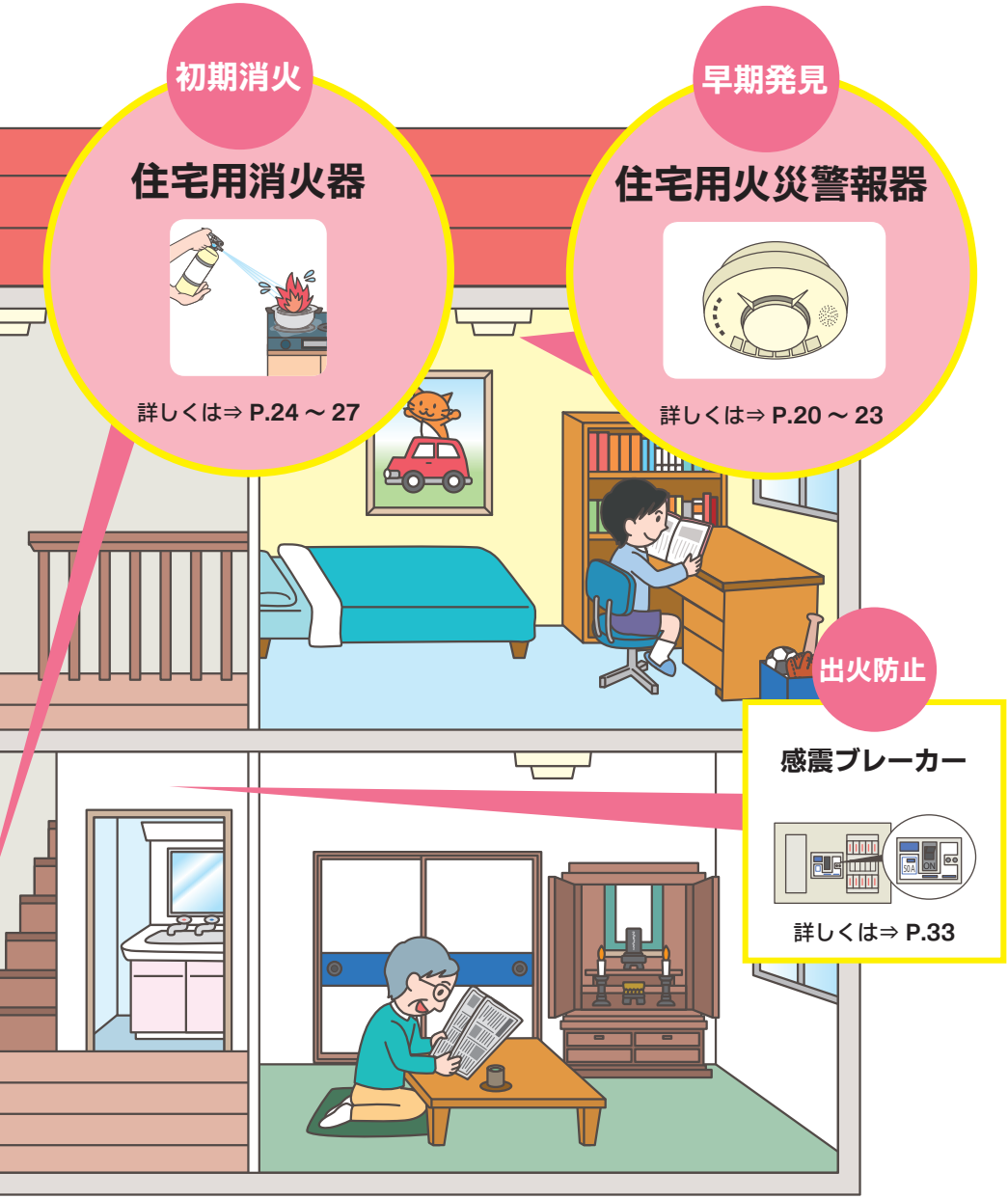
コラム　放火の火災事例

自宅敷地内の塀に立てかけておいた木製の廃材に、ライター等で放火された。

火災を防ぐためにはこんな防火・防災



製品があります！


初期消火
住宅用消火器
詳しくは⇒ P.24 ～ 27
早期発見
住宅用火災警報器
詳しくは⇒ P.20 ～ 23
出火防止
感震ブレーカー
詳しくは⇒ P.33

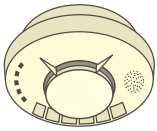
知らせる！住宅用火災警報器は命を守る

▶住宅用火災警報器とは…

煙や熱を感知して火災の発生を知らせます。現在市販されているものは「煙式」と「熱式」があります。そのほかに、ガス漏れを検知できるものもあります。

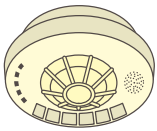
●煙式

煙を感知して火災と判断します。熱式よりも火災を早く感知することができます。



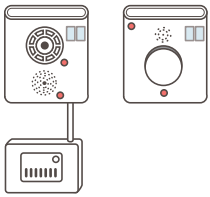
●熱式

熱を感知して火災と判断します。台所や車庫等、煙が発生しやすい場所は煙式より熱式の設置がお勧めです。



●複合式

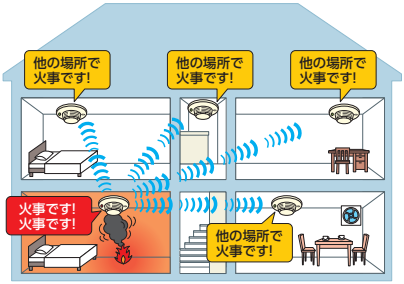
火災のほかにガス漏れや一酸化炭素も検知できる警報器です。台所などへの設置がお勧めです。



＜LP ガス用＞＜都市ガス用＞

●連動型

ひとつが火災を感知するとほかのすべての警報器が鳴ります。無人の場所で出火した場合でも他の場所で警報音を発しますので、早期発見に効果的です。



＜連動型の例＞

●補助警報装置

住宅用火災警報器と連動して音や光を発するもので、高齢者の方、目や耳の不自由な方も火災を察知しやすくなります。

購入方法等について

設置方法

●新築、改装を計画されている場合

住宅メーカー、工務店にお問い合わせください。

●自分で取り付ける場合

お近くの量販店や電気店等にお問い合わせください。

このほか住宅用火災警報器に関する質問は「住宅用火災警報器相談室」でも受け付けています。 ⇨ フリーダイヤル 0120-565-911

購入方法

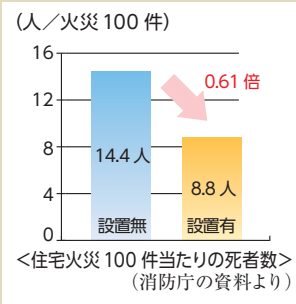
・購入する際には、お近くの量販店や電気店等にお問い合わせください。なお、消防署が販売することはありません。

・量販店等で購入する場合は、住宅用火災警報器の品質を保証する検定の合格表示、または日本消防検定協会の NS マークが付いているものを設置しましょう。

合格表示（検定マーク）		NS マーク（認証マーク）	
検	※平成 26 年4月1日以降の検定に合格したものは、このマークとなります。	NS 日本消防検定協会	※平成 31 年3月 31 日までは、このマークが付されたものが販売されている場合もあります。

コラム 住宅用火災警報器の効果

住宅用火災警報器が設置してある場合と設置されていない場合を比べると、火災発生時、設置してある場合は死者数が約 6 割に減っています。住宅用火災警報器の設置が、いかに火災発生時に有効であるかがわかります。



<住宅火災 100 件当たりの死者数>
（消防庁の資料より）

知らせる！住宅用火災警報器は命を守る

▶日頃から点検・メンテナンスをしよう

住宅用火災警報器が正常に作動するか、１か月に１回程度、定期的に点検をしましょう。また、住宅用火災警報器は長く取り付けている間に感知部分にほこりが付いたり、台所に設置してある場合は油や煙で汚れて、火災を感知しにくくなることがあります。いざというときに効果を発揮するためにも、日頃から定期的な点検･メンテナンスをしましょう。

●定期的に点検しましょう

住宅用火災警報器から下がっているひもを引く、又はボタンを押すなどして作動試験を行います。

●メンテナンス

ほこり、小さな虫などは誤作動の原因にもなるので取り除き、年に一度家庭用の中性洗剤などに浸し、固く絞った布で軽くふき取ってください。

※ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

※故障の原因になるため水洗いはしないでください。

●交換の時期

設置から 10 年以上が経過すると、電池の寿命や本体内部の電子部品の劣化などで不具合が発生しやすくなります。そのため、交換の目安を設置後 10 年とし、本体の交換をお勧めしています。

※電池切れの場合、電池交換で正常に作動し始めますが、本体の経年劣化により故障しやすくなっていますので、電池＋本体の交換をお勧めしています。

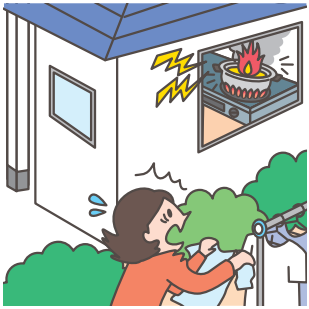
●廃棄方法

・住宅用火災警報器や電池を廃棄するときはお住まいの地域のルールに従って廃棄してください。

・廃棄するときは、住宅用火災警報器本体から電池をはずすこともお忘れなく。

奏功事例 ①

居住者が鍋を火にかけたまま外出してしまいました。しかし、隣人が臭いと住宅用火災警報器の鳴動音に気づいたことで、火災になる前に発見・通報することができました。



奏功事例 ②

下着を乾かすために電気ストーブの本体上に濡れたまま直接置いて、放置しておいたため着火し、火災となりました。

火元部屋の上に住む人が玄関を出たところ、焦げ臭さを感じたため火災だと思い周囲を確認。その際、住宅用火災警報器の鳴動音を聞き、火元部屋の場所を確認後 119 番通報しました。

初期消火に有効！住宅用消火器具

▶住宅用消火器とは…

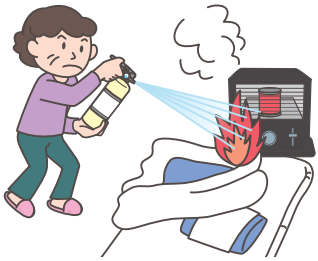
住宅火災に適した消火器として、誰にでも安全に簡単に操作できることが特長です。使用期間、または期限が本体容器に表示されています。消火剤の詰め替えはできません。

●住宅用強化液消火器

天ぷら油の火災に対して、効果を発揮します。火元が見えやすいため、火元や消火の確認が容易です。

●住宅用粉末消火器

住宅内の火災に対応できます。狭い部屋で使用する場合は、粉末が充満し、視界が悪くなる可能性があります。



▶エアゾール式簡易消火具とは…

スプレータイプの消火具なので、身近なところに置いて、素早く使えることが特長です。女性や高齢者も簡単に使えます。

(((購入及び廃棄方法について)))

住宅用消火器

●購入方法

量販店や消防設備業者を通じて購入できます。またはメーカーまでお問い合わせください。

●廃棄・リサイクル方法

消火器の廃棄をする場合は、「消火器リサイクルシール」が必要です。消火器にシールが貼られていない場合は、右の「既販品用消火器リサイクルシール」を指定引取場所（メーカー営業所等）または特定窓口（消火器販売店等）で購入し、消火器に貼り付けて、これらの場所にお持ちください。

既販品用消火器
リサイクルシール▶

ご不明な点は、㈱消火器リサイクル推進センターまでお問い合わせください。

⇨ TEL: 03-5829-6773　https://www.ferpc.jp

エアゾール式簡易消火具

●購入方法

量販店などで購入できます。

●廃棄方法

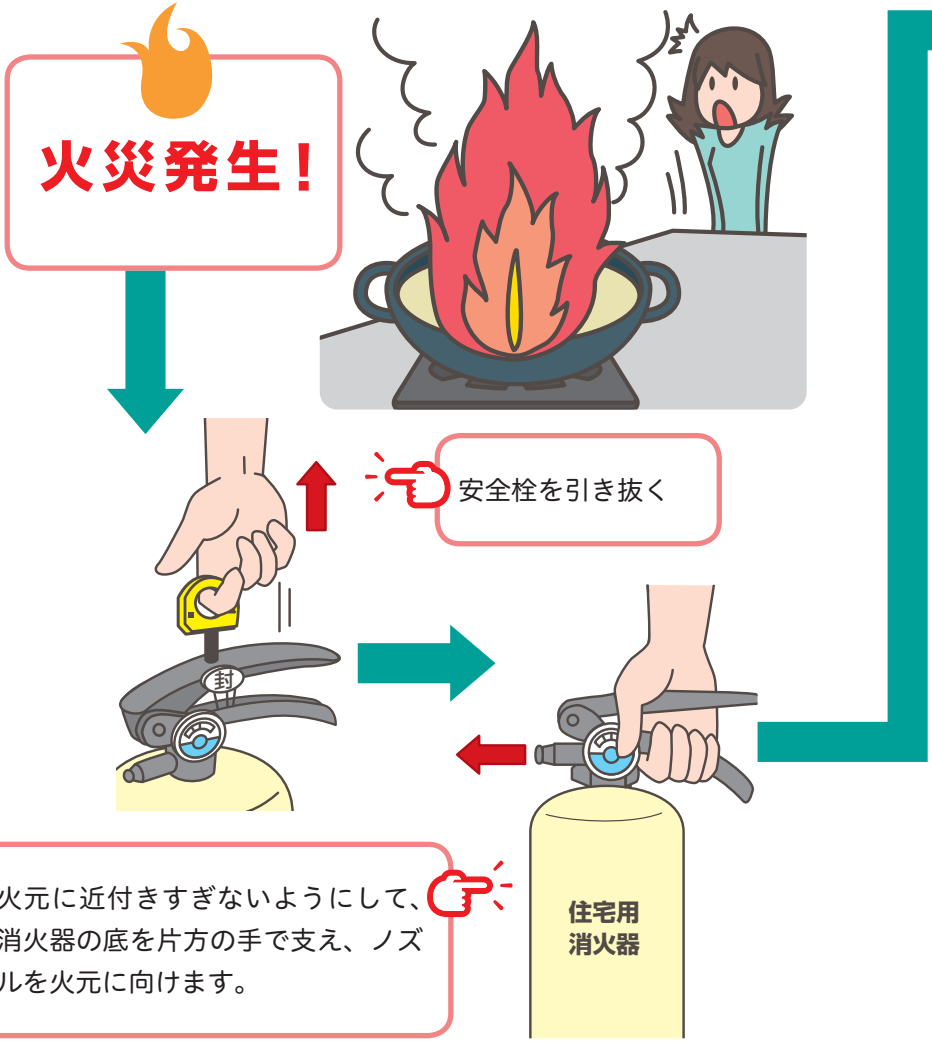
取扱方法、廃棄方法については、取扱説明書をよく読み、必ず中身を使い切り自治体のルールに従って廃棄してください。

不明な点はメーカーや購入した店舗にお問い合わせください。

初期消火に有効！住宅用消火器具

▶住宅用消火器の使い方

慌てず、速やかに万全な消火活動ができるよう、消火器の操作手順を学んでおきましょう。



ノズルを火元に向けて、強くレバーを握ります。煙で火が見えなくなりがちですが、しっかりと火元を狙いましょう。

住宅用消火器具の期限をチェック！

住宅用消火器具にも寿命があります。安全に、安心してお使いいただくためには、下図にあるように、きちんと使用有効期限や品質保証期限を守ることが大事です。

住宅用消火器

本体容器のラベルに使用有効期限が表示されています。

使用有効期限または品質保証期間を確認してください。

エアゾール式簡易消火具

缶胴部または缶底に品質保証期間が表示されています。

コラム 合格表示(検定マーク)と規格適合マーク

住宅用消火器には合格表示（検定マーク）が、エアゾール式簡易消火具には規格適合マークが、それぞれ付いています。エアゾール式簡易消火具は、NS マークが付いているものを選びましょう。日本消防検定協会が検定及び評価を行っています。

<住宅用消火器>

合格表示（検定マーク）

<エアゾール式簡易消火具>

規格適合マーク　NS マーク

初期消火に有効！住宅用消火器具

▶エアゾール式簡易消火具の使い方

エアゾール式簡易消火具は、天ぷら油火災などに有効です。

●安全な距離を確保する

火元から２～３ｍ離れたところから放射すると安全です。

●消火剤を放射する

火元に向けて放射を続けます。

●完全に消火する

再発火を防ぐため、最後まで放射します。

住宅用消火器とエアゾール式簡易消火具の消火力は異なります。エアゾール式簡易消火具は消火力に限界があるので、ごく初期の火災の消火の場合には効果があります。

奏功事例 ①

火がついたアロマキャンドルを机に置いていたところ、誤って手がぶつかってキャンドルが床に落ちてしまいました。カーペットに火がついたのですが、近くに備えてあったエアゾール式簡易消火具を使い、すぐに消火することができました。

奏功事例 ②

揚げ物をしていたところ、油の温度調節を間違えて油から出火。台所のエアゾール式簡易消火具を取り出し、無事消火しました。こんろ周りに火が燃え広がることもなく、被害を最小限に抑えることができました。

その他の防火・防災製品

もっと知ろう！さまざまな防火・防災製品

●防炎品

防炎品は、素材を工夫するなどして、通常の製品よりも燃えにくい加工が施されたもので、カーテン、ブラインド、じゅうたん、寝具、衣服類などさまざまな商品があります。家庭環境等にあわせて選択しましょう。

コラム　防炎表示

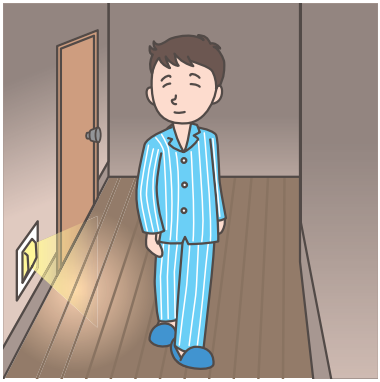
防炎品を選ぶときは、必ず防炎表示がついているものを選びましょう。防炎表示は、公益財団法人日本防炎協会が認定した製品につけられています。

●ガス警報器

ガス警報器は、ガス漏れを知らせるもので、「都市ガス用」と「ＬＰガス用」があります。台所への設置がお勧めです。

●明るさセンサー付き保安灯

平時にはナイトランプとして、また停電時は保安灯として、さらに非常時に取り外すと携帯電灯にもなる保安灯。非常時に避難しやすくなります。センサーによって明るさを自動調節してくれる機能付きのものもあります。



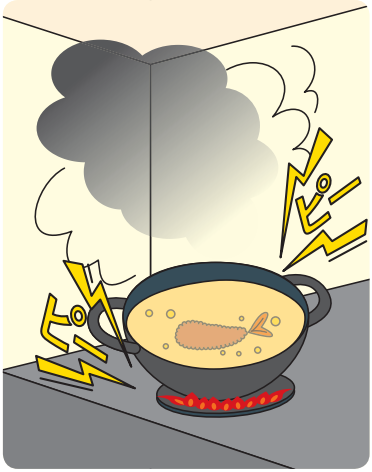
その他の防火・防災製品

防火・防災機能のある製品

●センサー付きガスコンロ

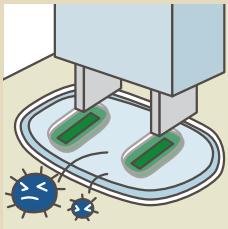
平成 20 年 4 月以降に製造されたガスコンロは、バーナー部分に Si センサーが取り付けられています。このセンサーには、次の機能があります。

・調理油の過熱防止
・煮こぼれ時などに自動的にガスを止める
・点火後一定時間が経過した時点で自動的にガスを止める　等



コラム　ホコリ防止電源タップ

ホコリ防止機能を備えた電源タップは、トラッキング現象（⇒ P.11）を未然に防いでくれます。電源タップの入口にふたがしてあるので、コンセントを使用しないときに、中にホコリが侵入する心配がありません。



●感震ブレーカー

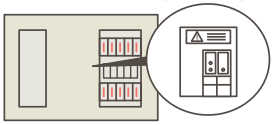
感震ブレーカーは設定した震度の揺れがあったときに、自動的に電気の供給をストップするものです。

地震後に電気が復旧した際に、倒れた暖房機器等で起こる火災を未然に防ぐ効果があります。

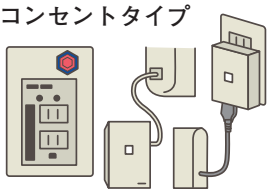
現在、各メーカーから販売されている感震ブレーカーは、主に３つのタイプに分類されています。

分電盤タイプ（内蔵型）

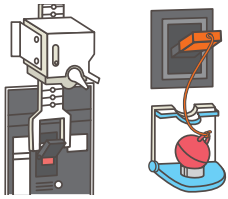
分電盤タイプ（後付型）



コンセントタイプ



簡易タイプ



・分電盤タイプ（内蔵型）……分電盤の内蔵センサーが揺れを検知し、ブレーカーを遮断します。

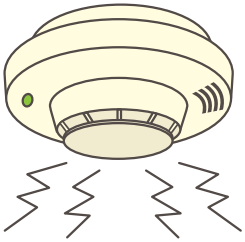
・分電盤タイプ（後付型）……分電盤に感震機能を外付けするタイプ。センサーが揺れを感知しブレーカーを遮断します。

・コンセントタイプ……コンセントにセンサーが内蔵されていて、揺れを感知するとコンセントからの電力供給を遮断します。

・簡易タイプ……分電盤のスイッチ等に接続するもので、地震が起きると、重りが落下したり、バネが作動するなどしてブレーカーを遮断します。

住宅用火災警報器が鳴ったら…

まずは、落ち着いて火災かどうかを確認！



スタート！

火元の確認

どこの住宅用火災警報器が
鳴ったか？
火災が発生？

火災

消火するか？

▶▶▶36頁へ

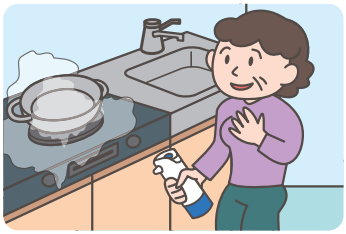
する

周りに知らせながら

▶▶▶40頁へ

住宅用消火器等で火を消す

▶▶▶24頁へ



できた

消火

火災が発生？まずすることは？
このフローチャートに沿って行動しましょう。

火災ではない → 火災ではなく、住宅用火災警報器が鳴る場合もあります

しない → 周りに知らせながら

▶▶▶40 頁へ

できない → 逃げる

▶▶▶41 頁へ

→ 消防に通報する

▶▶▶42 頁へ

消火するか

▶消火の判断は？

住宅用火災警報器が鳴った段階では、どの部屋でどのくらいの大きさの火災が発生しているか、はっきりとはわかりません。そのため、まずは現状を確認することが大切です。以下のポイントに留意して、消火・避難の判断ができるようにしておきましょう。

消火する？しない？

消火する

- ☑ 火元が確認できる（視界がきく）。
- ☑ 炎が天井や自分の背丈よりも小さい。

消火しない

- ☑ 火元が確認できない（煙の充満等で視界がきかない）。
- ☑ 炎が天井に届いていたり、自分の背丈よりも大きい。

消火するときは！

●落ち着いて安全確認を

避難する方向、経路など周囲を確認しましょう。

●住宅用消火器は確実に操作しましょう

火元を狙って放射しましょう。

●以下の場合、速やかに逃げる判断をしましょう

・住宅用消火器の消火剤がなくなった。
・炎が天井まで届いてしまった。
・消火できなかった。

コラム　防災訓練等に積極的に参加しよう

実際に火事を目の前にすると慌ててパニックを起こしてしまうものです。日頃から自治体等で行われている防災訓練に積極的に参加し、いざというときは訓練を思い出して行動しましょう。

火を消すことができたら

火が消えたら、チェックすること

- ☑ 完全に火が消えたか確認する。
- ☑ ガスを使用していたら元栓を閉める。
- ☑ 電気製品から出火した場合は感電に気をつけて
  - ・コンセントを抜く。
  - ・ブレーカーを落とす。
- ☑ 119 番通報する。

コラム　やけどを負ってしまったら？

応急処置として、速やかにやけどした箇所とその周辺を水で冷やしてください。

着衣が燃えてやけどした場合は衣服を無理に脱がさず、そのまま冷やしましょう。

消火後の掃除方法

住宅用消火器の使用後は、放射した液体や粉末が床や壁等に広がっています。

・液体の場合は、ぞうきんなどできれいに拭き取りましょう。
・粉末の場合は、ほうきなどでかき集めてからきれいにし、その後は水拭きや掃除機をかけるなどしてください。

※フィルター式掃除機の場合は、排気口から粉末が飛散する可能性があります。

コラム　住宅用消火器で放射した消火剤が体についたら？

住宅用消火器から放射された消火剤が体についたり、目に入った場合は水で十分に洗い流しましょう。

また、消火剤を吸い込んだ場合はうがいをしましょう。

周りに知らせよう

▶大声で周りに知らせる

火災を周りに知らせるときには「火事だー」と大声で叫んでください。火災による被害を最小限にするためには、周りに知らせることが必要です。

●家の中に家族がいる場合

家族に知らせ、協力して消防への通報や消火などを行いましょう。

●一人暮らしの場合

隣近所の住民に知らせましょう。通報や消火の協力を依頼しましょう。

コラム　避難路の確保を

特に高齢者は就寝する部屋を避難しやすい場所にしましょう。

避難しよう

▶避難と判断したら

避難のポイント

- ☑ 持ち物などにこだわらず、身の安全が第一です。
- ☑ 一度逃げたら絶対に戻らないようにしましょう。
- ☑ 高齢者や身体に障がいがある方がいる場合は、避難を優先させましょう。
- ☑ 火元から離れるように逃げましょう。
- ☑ 家族がいる場合、逃げ遅れがないように避難しましょう。
- ☑ 逃げ遅れた人がいる可能性がある場合は、消防隊に伝えましょう。

コラム　煙に注意して避難しましょう！

●煙の特徴

煙は高いところから溜まり、煙の量が増えると床近くまで下がってきます。

●煙から逃げるポイント

タオルやハンカチ等で鼻と口を覆い、姿勢を低くして逃げます。この際、煙を吸い込まないように注意しましょう。

消防に通報する

▶119 番通報のポイント

慌てずに落ち着いて、正しく情報を伝えることが重要です。

●固定電話からの通報

電話のそばに自宅住所や目標物を書いたメモを備えておきましょう。

●携帯電話からの通報

・携帯電話であることを伝えましょう。
・電話番号は必ず伝えましょう。
・状況確認のため、消防本部から連絡がある場合があります。

(((消防に通報すると)))

「119」をプッシュ

消防です。火事ですか、救急ですか？

火事です！！

住所はどこですか？

○○市（○○区）○○町
○○丁目○○番地、○○○です

◀出火場所の住所と名前を伝えます。

近くに何か目標がありますか？

○○の近くです

◀目標となる建物や交差点などを伝えます。
例：○○小学校の西側です。

何が燃えていますか？

○○が燃えています

◀燃えている場所、物を伝えます。
例：住宅の１階台所近くから火が出ています。

燃え方やけが人は？

けが人が一人います
○○が逃げ遅れています

◀火災の様子・けが人の状況を伝えます。
例：天井に火が届いています。燃え広がっています。
：高齢者が足にやけどをしています。
：２階に子どもがいます。

日頃から家族で話し合っておきましょう

▶日頃の準備が大事です

まずは火災を起こさないための環境や習慣づくり、いざというときの心構えを身に付けることが大切です。

火の用心

●家族で話し合い

火災を起こさないよう、万全の備えをすることが一番ですが、万が一起こしてしまった場合には、家族全員が冷静に行動することが、被害を最小限にとどめるためにも重要です。日頃から消火器の置き場所や使い方についても家族で話し合い、確認しておきましょう。

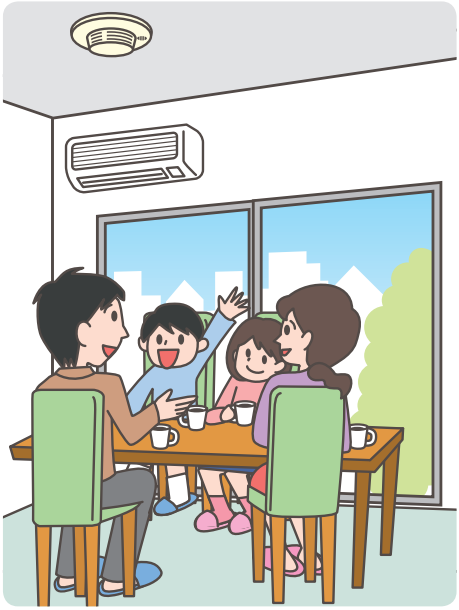
●避難方法の確認

家庭内における避難方法を複数決めておきましょう。

●ご近所付き合い

火災などの災害時に支援が必要な方の住まいやその周囲の環境などを掌握して、いざというときに助け合うことが大切です。

日頃からご近所と連携した協力体制をつくっておきましょう。



住宅防火いのちを守る7つのポイント

3つの習慣・4つの対策

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

火災予防のチェックポイント

火災予防のチェックに、この表をご使用ください。

	チェックポイント	✔
たばこによる火災を防ぐためのチェック	灰皿はありますか？	□
	灰皿にたばこは溜まっていませんか？	□
	水をかける等、きちんと吸殻の始末をしていますか？	□
	喫煙場所は決めていますか？	□
	燃えやすいものの近くでたばこを吸っていませんか？	□
	寝たばこはしていませんか？	□
ストーブによる火災を防ぐためのチェック	近くに洗濯物を干していませんか？	□
	ストーブを移動するとき火を消していますか？	□
	寝具やカーテンの近くにストーブを置いていませんか？	□
	スプレー缶を近くに置いていませんか？	□
	外出するとき消火確認をしていますか？	□
こんろによる火災を防ぐためのチェック	袖が長い服で料理をしていませんか？	□
	こんろの周りに物は置いてありませんか？	□
	こんろ周りはきちんと掃除されていますか？	□

	チェックポイント	✔
電気器具類による火災を防ぐためのチェック	コード類の上に物は置いてありませんか？	□
	コンセントと電気プラグの間にホコリは溜まっていませんか？	□
	古い電化製品には気を付けていますか？	□
	タコ足配線はしていませんか？	□
放火による火災を防ぐためのチェック	古紙や段ボールなど、放火されやすいものを屋外に出していませんか？	□
住宅用火災警報器をチェック	日頃から点検・メンテナンスは行っていますか？	□
	交換時期を確認していますか？	□
	廃棄方法を確認していますか？	□
住宅用消火器／エアゾール式簡易消火具をチェック	すぐに取り出せる場所に設置してありますか？	□
	有効期限等は切れていませんか？	□
	廃棄方法を知っていますか？	□
	圧力は適正ですか？ （指針が緑色の範囲内にあれば問題ありません）	□
	本体にキズやへこみはありませんか？	□

防火・防災製品のお問い合わせはこちらへ

■ 一般社団法人　日本火災報知機工業会
TEL：03-3831-4318
http://www.kaho.or.jp/

■ 一般社団法人　日本消火器工業会
TEL：03-3866-6258
https://www.jfema.or.jp/

■ 一般社団法人　全国消防機器販売業協会
TEL：03-5566-0821
http://zefa.or.jp/

■ ガス警報器工業会
TEL：03-5157-4777
http://www.gkk.gr.jp/

改訂
火災から命を守る
住宅防火読本

平成30年11月発行
編集：一般財団法人　日本防火・防災協会
〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-9-16　日本消防会館5階
電話　03-3591-7123／FAX　03-3591-7130
URL　http://www.n-bouka.or.jp/
発行：日本消防検定協会
〒182-0012　東京都調布市深大寺東町4-35-16
電話　0422-44-7471（代表）／FAX　0422-47-3991
URL　http://www.jfeii.or.jp/
印刷・製本：東京法令出版株式会社

改訂

火災から命を守る

住宅防火読本